

学長式辞

穏やかな春の日差しが一面に感じられるとても良い季節になりました。

本日、卒業・修了を迎えられた皆さん、誠におめでとうございます。先ほど学部卒業生 438 名、大学院修了者 11 名の皆さんに卒業証書、修了証書並びに学位記を授与いたしました。後ほど、それぞれに各学部長から真新しい証書が手渡されると思いますが、喜びも一入かと思えます。皆さん、大学を卒業あるいは修了し、学士、修士、博士の学位を得る意味をこの機会にもう一度考えてください。これらの称号は決められたカリキュラムを修得し、最終試験に合格して初めて与えられるものです。入試という関門を経て、様々な講義や実習・演習、卒論等で単位を修得しなければなりません。皆さんはそのために努力し無事にその成果として学位を獲得されました。卒業・修了並びに学位は皆さんの大学生活の証であり、これからの人生とともに携えていくものだと思います。学位に恥じない立派な人生を送られんことを心から願っております。

皆さん、本学での生活はいかがでしたか？4年あるいは6年、大学院博士課程では10年という長い期間にわたってそれぞれの専門の道を歩んでこられました。これから社会に巣立つとき本学で身につけられた教養、専門知識さらに社会貢献や部活等で培った経験等がこれからの社会生活において十分発揮できることを願わずにはおれません。

社会情勢は刻々と変化しています。皆さんが在学された期間においても様々な変化がありました。例えば少子高齢化、地方の過疎化など、我々の生活を大きく変化させる状況が押し寄せています。少子高齢化は高等教育機関の教育・研究に大きく影響し、その結果、地域社会の発展にも累が及ぶことが懸念されています。一方、地球温暖化や自然環境破壊等による大規模な自然災害の発生は世界中の人々の生活を脅かす脅威となっています。日韓、米中、米イランなどに横たわる外交、経済、軍事関係においても解決困難な国家レベルの課題が噴出しました。核開発やテロ、新型コロナウイルスの蔓延、難民や飢餓といった、これからの世代が解決すべき人々の生活に密接に関係する課題が山積みされています。

さて、これから皆さんは新たな世界へと踏み出していくことになります。おそらく想像以上に厳しい世界だと思いますが、恐れる事は何もないと思います。これまで大学で培った知識・技能を十分に活かす事によって様々な困難に立ち向かっていくことができます。しかし何と言っても不断の弛まない努力が必要です。徳川家康は、遺訓に次の様な言葉を残しています。「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし。急ぐべからず」、すなわち人生は長く、苦しいことが多いので辛抱強く努力を重ねて進むべきである、急いではならない、ということです。また、かのエジソンも言っています。「天才とは1%のインスピレーションと99%の発汗、努力である」と。

皆さん、過去を変えることはできませんが、未来は創ることができます。立ち止まることなく、急がず慌てず、それぞれが目指す未来を、それぞれの力で創り上げてください。

皆さんの将来に栄光あらんことを願って式辞とします。

令和2年3月14日

長崎国際大学 学長 中島 憲一郎